令和 7 年度学校関係者評価委員会報告書

令和 8 年 3 月 17 日
世田谷区立駒沢小学校
学校関係者評価委員会

本年度 11 月に実施しました「学校関係者評価」の結果をご報告いたします。

アンケート回収率・状況
児童（5、6 年生）：100％（校内にて実施）　保護者：56％（昨年）→64％（今年）　地域 53％（昨年）→70％（今年）
（参考：　保護者・地域ともに昨年より回収率は上がっているが、更なる工夫が必要であろう）
～　アンケート結果　（駒沢小学校 HP より）～

児童(5,6 年生)☞　保護者☞　地域関係者☞

評価結果の分析方法
1　本年度の各アンケート項目の「とても思う」「思う」の回答数合計の割合を出す
2　アンケートの項目ごとに昨年度と比較し「よくなった」「悪くなった」等の状況を把握する
3　否定的回答の「思わない」「あまり思わない」および回答傾向が不明な「わからない」が多かった設問について検討する。なお、2，3については、統計的に有意であるとみられる数値の増減や多寡がみられた項目の検討を主とするもので、個々の増減多寡すべてにコメントするものではない

総合所見
【成果】
●全体的に教育活動(学習、学校行事、生活指導)に対して児童は 80～95%、保護者は 80%が肯定的な評価結果を示している。昨年に引き続き、児童も保護者も教育活動に関して概ね満足しており、日頃から学校では、児童、教師、保護者が良い関係で子どもたちの教育活動と向き合っている様子がうかがえる。とりわけ「学ぶことが楽しい」について児童の肯定的な評価が上がったことには、今年度の重点目標である「学ぶ楽しさを知り、考えを深める力を育む」のテーマに沿った校内研究の成果がうかがえる。

●「自分の生き方や将来のことについて考える授業がある」は約 26%ポイント、「区立中学校に関する情報が提供されている」は約 11%ポイント、それぞれ肯定的な評価が昨年に比べ上がっている。保護者、地域の方から仕事の話を聞くなどのキャリア教育について前年度の課題に対して学校が保護者への周知を積極的に取り組んだことがうかがえる。

●「学校に意見や願いを伝えている」「学校は私の意見や思いを汲み取っている」という質問について児童、保護者ともに肯定的な評価が 60%を超えた。昨年度の検討をふまえアンケート実施の際に教員より児童にアンケート内容の丁寧な説明があったことが結果に反映された。また、子どもたちからの要望であったシャープペンシルの使用に関し学校が 6 年生に対して使用を認めたことなど、子どもたちに向き合った柔軟な対応が信頼を得ているようすがうかがえる。

●地域との連携について、保護者、地域ともに概ね肯定的な評価が上がっている。地域活動や情報の共有など積極的に取り組んでいる成果がでている。

●その他「学校ホームページの情報」「すぐーるから配信される情報」への保護者の満足度も約 20%ポイント上昇してさらに高い水準となり、学校が情報提供に積極的であること、教員の継続的な取り組みの成果がみえる。

【課題】
●学習について、児童保護者ともに概ね 80%を超える肯定的な評価だが、「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」に対して数値上は他項目と比べてやや低い。また、児童の「映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」の回答は数値上若干低下している。学校の掲げた「教員の授業力の向上」の継続的なご尽力に期待する。

●昨年に引き続き、区立中学校に関する情報提供、「駒の学び舎」との連携に関しては、児童からの評価は上がったものの保護者からの評価を得られていない結果となっている。掲示板の活用や学校 HP のリンクなど改善策は見られるものの、保護者に浸透していないと考えられる現状である。更なる検討が必要である。

今年度の評価委員会は、上記総合所見に注目して考察した。以下の提言をもとに、学校運営の改善につなげてもらいたいと考えている。

【提言】

1 学習指導について

・各項目について、子どもの肯定的な評価があがっていることに教員の努力が高く評価できる。今後も先生方の授業構想力の向上を、教師個々人に委ねるのに留めず、学校全体として取り組みが広がることを期待する。

・子どもたちが日々小さな成功体験を積めるよう、めあてや見通しの確認、学習の進捗の可視化など、達成感を得られるよう、一層の取り組みをお願いしたい。

2 保護者や地域との連携強化

・引き続き保護者向けの情報発信を充実させ、「すぐーる」を活用、保護者との連携を深めていただきたい。

・地域の人材を活用した学習活動やキャリア教育の機会を定着化させ、児童の将来に対する意識の高上を期待する。

・ホームページの充実により、地域との情報共有がされ学校への理解が高まっている中、さらに安心安全な街づくりのためにも地域学校保護者の連携、協力に努めていただきたい。

3 区立中学校および「駒の学び舎」との連携、その広報活動

・児童や保護者に向けた区立中学校や「駒の学び舎」の情報提供をより分かりやすく発信するため、引き続き学校の掲示板や HP で、可能な範囲で写真・動画などを使用して視覚的に理解しやすい形の情報発信を一層工夫する必要がある。

・今年度、駒沢小学校は学級閉鎖のため参加できなかったとのことだが、中学校の合唱祭リハーサルを鑑賞するというイベントがあることで児童の「駒の学び舎」への意識の高まりが期待できる。更なる交流の場を持ち、進学に対する具体的なイメージを持たせることに期待する。

4 学校のルールに対する理解の深化

・児童がルールの意義を理解し、主体的に守れるよう、対話型の指導を今後も継続してもらいたい。

・具体的な事例を用いて、ルールの背景を考えさせる機会を提供していただきたい。

・学校と家庭が共通の価値観のもとで指導を行っていけるよう、より連携することを期待している。

5 児童の意見を反映した学校運営の推進

・児童の意見を積極的に集めるしくみを整え、引き続き学校行事や日々の教育活動に反映していただきたい。

・児童の意見をもとに、学校行事や学習活動を改善するなどのフィードバックを行うことで、児童の参加意識が高まると考える。

これらの提言をもとに、駒沢小の児童が主体的に学び、意見を表現しやすい環境を整えることで、より充実した教育活動を実現することを期待する。

令和 7 年度
世田谷区立駒沢小学校
学校関係者評価委員会
委員長　永田　園子
委　員　矢野　博之
委　員　久島　幸子
委　員　野村亜美子
委　員　清田　彩

提言を受けての小学校の取り組み

① 来年度は、教員一人一人の授業力向上に重点をおいた校内研究を推進していく。子どもたちが「わかる・できる」喜びを味わいながら、主体的に学びへ向かう姿を育むことを目指し、教師の指導改善と学習環境の充実を図っていく。日々の授業の質をさらに高めることで、子どもたちが楽しく意欲的に活動し、その学びがより深く確かなものとなるよう、研究を計画的に進めていく。

② ホームページやすぐーるを活用した情報発信をこれまで以上に充実させ、学校の教育活動や子どもたちの成長の様子を、分かりやすく・タイムリーに伝えていく。保護者・地域と学校が、双方向のコミュニケーションを意識しながら、連携の強化を図っていく。また、地域の豊かな人材をこれまで以上に積極的に活用し、全学年でキャリア教育に取り組む。地域で活躍する方々の講話や体験的な学習を積み重ねることで、子どもたちが多様な職業や生き方に触れ、自分の将来について考える機会を広げていく。

③ 駒の学び舎の活動を、ホームページや学校掲示板で引き続き発信していく。学び舎へのさらなる意識向上を図るため、三軒茶屋小学校との交流を続けていく。また、今年度は学級閉鎖のため参加できなかった駒沢中学校合唱コンクールのリハーサル見学を実施する。年に 1 回のあいさつ運動を 2 回に増やし、中学生との交流を深める。

④ 「駒沢小学校の約束」について、保護者会で共通理解を図り、家庭と学校で共通した指導を行っていく。学年の発達段階に応じて、自分たちでルールを決める場面を設定するなど、引き続き対話型の指導を行っていく。

⑤ 児童会活動や学級会をはじめ、日常のアンケートやふり返り活動など、児童の考えを把握する機会の充実を図っている。今後はさらに、児童が自分の思いや考えを表現しやすい環境づくりを進めるとともに、そこで得られた意見を学校行事や日々の教育活動により確実に反映できるよう取り組んでいく。

終わりに

今年度の学校関係者評価について、委員の皆様に分析をしていただき、今後の方策についてまとめていただきました。
今回の提言を受け、今まで大切に培ってきたものについては継続し、新たな視点で改善を加えるものについては教職員間で共有を図ってまいります。
令和7年度は「安全・安心な学校　～だれもが笑顔になる学校～」をテーマにして、保護者及び地域との連携を図った教育活動を実践することができました。次年度は、これを更に発展させてまいります。
小中3校での実践を基にして駒の学び舎での実践を広げるとともに、地域の皆様との新たな教育活動を展開してまいります。これからも、駒沢小学校の子どもたちの輝く笑顔のため、教職員一同力を尽くしてまいります。

世田谷区立駒沢小学校長　鈴木　隆弘